～馬毛島活用の方向性～

（平成 29 年 12 月策定）

① 宇宙関連事業の展開

「種子島＝ロケットの島」であり、本市でも現在は休止中であるが、H16 年度まで宇宙往還機着陸場馬毛島建設促進期成会（HOPE）が活動し国などへ陳情等行っていた。また、現在でも鹿児島県宇宙開発促進協議会（会長＝県知事）が、鹿児島県開発促進協議会と共同で国（内閣府、文部科学省、経済産業省、JAXA）に対し、宇宙開発の推進について要請活動を行っている。

このことから、県と連携を深めるとともに、種子島屋久島振興協議会や種子島宇宙開発促進協議会での要請活動や期成会の再開も視野に入れ、馬毛島への宇宙往還機着陸場の建設に向けた取り組みを展開していく。種子島の地域振興のための宇宙産業誘致と合わせ、積極的に県と連携し国に対し要望を行う。

② 馬毛島自然保護区及び自然・文化総合学術調査施設の設置

市民間においては FCLP 問題に係ることは活発的な議論が交わされるものの、馬毛島と種子島の密接な関わり合いや特異な自然環境、歴史・文化的な情報が、十分に市民へ伝わっていないことが挙げられる。

このことから、これらを後世に残すべき貴重な「財産」として、大学などと連携した調査研究機関を設置または誘致し総合的な調査を行い、地元地域住民の福祉向上に資する「教育」「観光」を視野に入れた多様な活用を進めていくことを目的とし、将来の自然保護区設定を見据えた生態調査を主とする共同研究施設の設置を目指す。

③ 馬毛島における体験活動の実施

馬毛島を後世に受け継がれていく教育や観光の土台として、自然と人との関わり方を学ぶ活動や体験ができる場とすることで、馬毛島の特異な自然環境や歴史・文化的なことが改めて認識され、馬毛島を貴重な「財産」として広く住民に知っていただくことができる。

このことから、自然観察（生態観察・星空観察）などのプログラムをとおして、青少年の自立心、協調心、探究心、自然・文化愛護心などを養うことを目的とし、ありのままの自然を活かした体験学習などのイベントを行う。その拠点として、市が保有する馬毛島小・中学校跡地及び校舎を活用する。

馬毛島小・中学校跡現地調査（H29.12.19 実施）

④ 馬毛島トラスト（仮称）の展開

馬毛島の自然環境、歴史・文化的なことを後世に残すべき貴重な「財産」として捉え、これらの保全や活用に係る事業を展開していくためには、本市だけの取組みでは限界がある。

このことから、馬毛島問題や馬毛島に係る活動を世界中に発信し、土地購入や施設整備活動に必要な資金を確保するための「馬毛島トラスト（仮称）」創設を検討する。

出典：西之表市ホームページ